

# JAIR Newsletter

No.155 April 2018

日本国際政治学会

  
<http://jair.or.jp/>

## [目次]

巻頭言.....1	『国際政治』投稿募集.....4
事務局からのお知らせ.....2	2017 年度研究大会報告.....6
理事会便り.....2	編集後記.....6

## ディールの代償

大津留（北川）智恵子

2001年に発足したW・ブッシュ政権は、当初はABC (Anything but Clinton) を唱えることで、クリントン政権との違いを強調した。続くオバマ政権も、最初の大統領令で大統領記録の保管手続きを引き締めることで、ブッシュ政権の秘密主義への批判を行った。大統領の交代が政党の交代と重なることが多いアメリカでは、前政権の政策からの明確な転換を示すことは、自党や自政権への信任を得るための常套手段でもある。

しかし、過去の政権から蓄積されてきた政策の中には、政治的メッセージのために利用すべきではないものも存在する。アメリカの理念を反映するものや、アメリカの国益に合致すると広く受け入れられてきた政策は、政権政党が入れ替わっても揺るがずに受け継がれてきた。もっとも、従来からの立ち位置を継続することが自目的化すべきではなく、国内外の変化を見極めて新たな方向性を示すことは、時々の大統領の重要な任務でもある。

これまで民主党にも共和党にも第三政党にも所属してきたドナルド・トランプは、選挙戦でオバマ政権とヒラリー・クリントンとの継続性から民主党を批判するだけではなく、共和党の主流派が重視してきた国際主義にも異を唱えた。グローバル化の中で置き去りにされた白人労働者の声を代弁し、難民を含め外からの敵を排除するというメッセージは、20世紀後半からアメリカ社会が模索した多文化なアメリカ像やリベラルな国際主義との共存を拒む、閉鎖的なアメリカを示していた。

トランプがこれまで公職を経験したことがない大統領だということも新たな挑戦となる。もちろん、誰しも最初は大統領という椅子に初めて座るわけであり、行政経験のない上・下院議員や外交経験のない州知事などが、大統領職を遂行する中で学びながら、その器に相応しい政治家へと成長する。しかし、ツイッターという手段で重大な政策決定を発信するトランプ大統領に、公職経験者であれば理解しているはずの「公」という概念が認識されているとは思えず、2年目に入っても大統領としてどのように成長するのかは見えてこない。

トランプの口から多発される「ディール」も、それが正確に何を意味し、何を意味しないのかがわからないまま、世界はその行動を推し測っている。貿易をめぐる中国に対して振り上げた拳は、どのようなディールが成立すれば、そっと降ろすのであろうか。朝鮮民主主義人民共和国からの首脳会談の誘いに、どのようなディールを想定して応じてみせたのだろうか。周囲から穏健派が排除され、イラク戦争時のブッシュ政権以上に歯止めのきかない方向へ変容しているトランプ政権は、ディールの不成立を力の行使に移行するための口実に利用するつもりではないかとも疑われる。

ツイッターの呟きで公文書を補いながら外交史を書くことになるだろう将来の研究者が、トランプ政権のディール外交が何をもちたらし、その代償が何であったのかを検証してくれる日に期待したい。



---

## 事務局からのお知らせ

---

### 1. 新入会員の承認

第 11 回理事会（3 月 4 日開催）で入会申込書等が回覧され、7 名の新入会員が承認されました。会費の納入をもって正式に会員となりますので、入会を承認された方々は会費を納入してくださいませよう、お願いいたします。

### 2. 会員相互検索システムの設定変更について

すでに運用が始まっている会員相互検索システムに関して、専門分野の項はシステムの構造上、絞り込みではなく「OR」検索になっていることから、表示に際して（詳細を開く前の画面に）、分野名を表示させる形に設定変更することとなりました。

2016-2018 年 期 理 事 長 石 田 淳  
2016-2018 年 期 事 務 局 主 任 遠 藤 貢

---

## 理事会便り

---

### 編集委員会からのお知らせ

#### 1. 2020 年度『国際政治』の刊行予定についてご案内いたします。特集タイトルはすべて仮題です。

- ・ 201 号「ソ連研究の新たな地平」（編集：松井康浩会員）  
申込締切：2019 年 5 月 31 日 提出締切：2019 年 12 月 31 日
- ・ 202 号「1930 年代の国際秩序構想」（編集：戸澤英典会員）  
申込締切：2019 年 8 月 31 日 提出締切：2020 年 2 月 28 日

特集の趣旨、募集案内は、本ニューズレター中の記事および下記の学会 Web ページをご覧ください。

『国際政治』201 号、202 号投稿募集  
<http://jair.or.jp/committee/henshu/3183.html>

会員の皆様の積極的なご応募をお願いします。

#### 2. 2019 年度刊行予定の『国際政治』の特集号も引き続き投稿を募集しています。特集タイトルはすべて仮題です。

- ・ 197 号「国際政治における中国」（編集：川島真会員）  
申込締切：2018 年 5 月 31 日 提出締切：2018 年 12 月 31 日
- ・ 198 号「『ウィルソン主義』の 100 年」（編集：西崎文子会員）  
申込締切：2018 年 8 月 31 日 提出締切：2019 年 2 月 28 日
- ・ 200 号「オルタナティブの模索——問い直す国際政治学」（特別編集委員会：飯田敬輔／中西寛／酒井啓子／大島美穂／大矢根聡）  
申込締切：2019 年 2 月 28 日 提出締切：2019 年 9 月 30 日

こちらの特集趣旨、募集案内は下記ページをご覧ください。

『国際政治』197 号、198 号投稿募集  
<http://jair.or.jp/committee/henshu/2791.html>

『国際政治』200 号投稿募集  
<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/committee/no200recruit.pdf>

3. 独立論文は随時応募を受け付けています。こちらもぜひ奮ってご応募ください。執筆要領等の詳細は学会 Web ページ「論文投稿等関係 ([http://jair.or.jp/documents/rules\\_for\\_papers.html](http://jair.or.jp/documents/rules_for_papers.html))」に掲載されている『国際政治』掲載原稿執筆要領」をご覧ください。応募・問い合わせ先は、編集委員会副主任:石川卓までお願いします。
4. 『国際政治』は特集論文、独立論文とも査読プロセスを経ています。執筆から掲載までに一定の修正が求められることが多く、時間とエネルギーを要するプロセスですが、論文の質の向上には確実に貢献していると考えています。会員各位にはなお一層積極的な投稿および再投稿をお願いします。また、編集委員会より査読をお願いした際には、多くの会員に快くお引き受け頂いており、心より感謝しております。引き続きお力添えを賜りますよう、お願いします。
5. J-stage での『国際政治』電子版では、刊行後 2 年以内の号の論文について、購読者番号とパスワードを用いた会員限定の閲覧を行っています。2018 年 3 月現在で、187 号 (2017 年 4 月刊行) の閲覧が可能です。購読者番号とパスワードは、会費納入用紙、『国際政治』等、各種の郵便物とともにお知らせしています。
6. 『国際政治』に掲載した論文を執筆者が転載 (複製利用) する場合、ご自身の著書等に利用される際は、事前に文書で理事長に申し出ていただくことになっており、またリポジトリ等に掲載される際は、編集委員会主任に申し出ていただくことになっております (『国際政治』掲載原稿執筆要領 1-(6)・(8))。前者については、学会 Web ページに掲載している申請書をご利用ください (<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/tensaikyoka.pdf>)。双方とも連絡は編集委員会主任 大島美穂までお願いいたします。

編集委員会主任 大島美穂  
副主任 石川 卓  
jair-edit☆jair.or.jp  
(☆を@に変えてください)

---

## 国際交流委員会からのお知らせ

2018 年度国際学術交流助成への申請を公募しております。

申請資格・助成対象・申請方法の詳細や申請上の注意・申請用紙は学会ホームページの以下のページやリンクからご参照、ご利用ください。

<http://jair.or.jp/committee/kokusaikoryu3190.html>

第 1 回募集の締切が 5 月 10 日 (木)、第 2 回募集の締切が 11 月 29 日 (木) でいずれも一橋大学事務所必着となっております。

積極的なご応募をお待ちしております。

国際交流委員会主任 都丸潤子

---

## 制度整備・自己点検タスクフォースからのお知らせ

制度整備・自己点検タスクフォースでは、日本国際政治学会の組織的特性に基づく研究の特徴を確認する作業を進めております。その作業の一環として、本学会のサイトに「アーカイブズ」コーナーを設け、「日本国際政治学会の組織」として過去の組織図と役職者等の情報を整理して掲載し、また「日本国際政治学会の活動」として、過去の研究大会のプログラムと『国際政治』誌および *IRAP* 誌の目次、ニューズレターのバックナンバーを掲載いたしました。『国際政治』については、全ての号の掲載論文、書評等を網羅しました。利用いただければ幸いです。

本学会の研究上の特徴については、検討の結果を「アーカイブズ」の「日本国際政治学会における国際関係論」に掲載してゆく予定にしております。それに先立って、本タスクフォースの企画として、昨年度の研究大会において部会「日本の国際関係論の再検討—『外圧反応型国家』としての日本外交をめぐる理論・歴史研究の位相—」を開催いたしました。その報告ペーパーをアップいたします。同部会では、古城佳子会

員と添谷芳秀会員、波多野澄雄会員が、本学会における研究をレビューした報告を実施していただき、その際の報告ペーパーに手を加えてくださいました。またタスクフォースでは、これまでに中東地域研究、アフリカ地域研究、国際政治経済論などについて委員が研究の特徴を報告し、討論者を招いて議論しております。3月11日の第5回会合では、中国・アジア地域研究（報告・青山瑠妙委員）および日本外交史（報告・井上正也委員）の検討を行いました。今後、さらに安全保障論、アメリカ研究やヨーロッパ研究などについて検討を進めてゆくことにしております。こうした検討の結果も、5月以降に順次「アーカイブズ」に掲載してゆく予定にしております。会員の皆様が、本学会における研究を振り返り、その蓄積を確認するとともに課題を考え、また研究上の対話を深めていただく際、一つの手がかりになれば幸いです。

制度整備・自己点検タスクフォース主任 大矢根 聡

## 広報委員会からのお知らせ

学会 HP では、会員の皆様からのシンポジウム等のお知らせや新刊紹介などを随時掲載しております。情報交換・共有の場としてご活用ください。掲載を希望される場合は、HP 右側のメインメニューの「お知らせ投稿フォーム」をご利用のうえ、ご投稿ください。統一的な記録を残していく必要があるため、お手数ですが、上記のフォームへの記載をお願いいたします。パスワードは、紙媒体ニューズレター146号に掲載されていますが、今後は、会費納入用紙、『国際政治』等、各種の郵便物とともにお知らせします。

その他、ニューズレターや HP についてお問い合わせ等がありましたら、広報委員会 (jair-pr☆jair.or.jp) にご連絡ください。(☆を@に代えてください)

広報委員会主任 山田敦

## 『国際政治』201号、202号投稿募集

### 『国際政治』201号 「ソ連研究の新たな地平」(仮)

昨年(2017年)はロシア革命100周年に当たり、革命とそこから誕生したソ連を再考する出版企画や雑誌の特集が目白押しとなった。現代世界に与えたその影響力に鑑みれば、昨年の動きを一過性のものにとどめず、ソ連の実験や経験から新たな知見を引き出す作業は国際政治学の観点からも意義があろう。本特集は、近年、めざましく進んだ世界的なソ連研究の動向を踏まえ、新しい視角・資料に基づく日本の研究成果を提示し、共有することを目指すものである。

具体的な研究課題は様々に考えられるが、一つの柱は、国際政治・国際関係理論への寄与を意図したソ連研究である。この20年程の間に、独自の統治システムを備えた多民族国家ソ連を対象にした帝国研究、ソ連時代の歴史的経緯や記憶/アイデンティティ政治を背景にした未承認国家や地域・民族紛争の研究など、理論的な貢献につながり得る成果が少なからず現れたが、なお一層その可能性を探る必要がある。20世紀国際システムの中核的パワーであったソ連を変数に組み込んだ、より一般的な理論研究の展開も求められる。

二つ目の柱は、歴史的、実証的な研究である。ソ連が健在であった時代から今日に至るまで、多国間ないし二国間関係の文脈でのソ連外交の研究、個別の歴史的な事象をめぐるソ連の対外行動及びその対外政策決定過程の研究、核戦略のような軍事の領域から、経済協力、人権問題、環境問題に至る広範囲な国際的イシューへのソ連の対応を明らかにする研究などが進展をみた。既知のテーマを再考しつつも、新規のテーマをアーカイヴ文書などの新しい資料に基づき解明する取り組みがここでの重要な課題となる。

以上の二つの柱は、国際政治学、国際関係論の大枠に収まるが、仮にその枠組みを超えるものであっても、学術的に魅力的なインプリケーションを備え、ソ連研究の新機軸となりうるようなユニークな論稿は大いに歓迎したい。

なお、帝政ロシアや現在のロシア、旧ソ連・旧東側陣営に属した諸国やそれを横断する地域の研究も本特集の範囲内にあるが、その場合でも、歴史的存在としてのソ連が考察の軸の一つに据えられたものが望ましく、執筆依頼にあたっては優先される。

以上のように、ソ連研究の現在の意義を示し、かつ新たな地平を展望しうる特集号となるべく、それに応える論稿を期待したい。

論文の執筆を希望される会員は、論文の仮タイトルと趣旨(600字~800字程度)を下記の編集責任者の連絡先までお送りください。締切りは2019年5月31日です。応募にあたっては、ご自宅とご勤務先・ご所属先の住所・電話/FAX番号、メールアドレスをお知らせください。検討のうえ、ご執筆願うことになった方

には2019年6月30日までに編集責任者から連絡いたします。論文原稿の最終締め切りは2019年12月31日を予定しております。論文原稿の分量は註を含めて2万字以内です。査読のうえ、最終的な掲載の可否を決定いたします。本号の刊行は2020年5月31日を予定しています。執筆要領については、以下の学会ホームページをご参照ください。

<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お問い合わせ、お申し込みは下記までお願いいたします。

<編集責任者>松井康浩

<連絡先> 〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡 744

九州大学大学院比較社会文化研究院

Tel/Fax 092-802-5617

Email: matsui★scs.kyushu-u.ac.jp (★を@に置き換えてください)

---

### 『国際政治』202号「1930年代の国際秩序構想」（仮題）

『国際政治』202号では、両大戦間期の中でも国際秩序の動揺が鋭敏に感得されるようになっていく1930年代の国際秩序構想に焦点を当て、多様なオルターナティブや「失われた機会」の可能性、国際政治学の誕生を含めた思想的なインパクトや遺産といった点を多面的に検討したいと思う。刊行予定の2020年は東西冷戦終焉から30年の節目の年となるが、ポスト冷戦期の国際秩序はなお揺らいだままで、1930年代の危機的状況との類似を指摘する見方もある中、この時期の歴史を本格的にふり返る意義は大きいと考えるからである。

大恐慌が世界大に波及していき、「もてる国」がブロック経済化による苦境脱出を図る中、日本やドイツなどの「もたざる国」は次第に追い込まれ、ヴェルサイユ体制やワシントン体制といった米英主導の国際秩序に挑戦する姿勢を強めた。20年代後半にはロカルノ条約、不戦条約、「欧州連邦秩序」のブリアン提案・・・と国際協調主義の成果を積み重ねた国際連盟のプレゼンスは大きく後退し、連盟を脱退した日本、ドイツ、イタリアは各々の「新秩序構想」に邁進していく。但し、各国の「新秩序構想」にも路線対立があり、また、「もてる国」の側にもより安定した国際秩序の構築を目指す議論があったのは周知の通りである。

そうした多様な1930年代の国際秩序構想について、最新の歴史研究の成果を踏まえつつ、(1)国際組織の位置づけ、(2)フォーディズムの影響や経済体制の考慮、(3)国際政治とのリンケージ、の3点も比較検討し、各構想の異同や相互作用を明らかにし、現在への教訓や示唆を得たいと考えている。

もっとも、脱植民地化が達成され、核兵器をはじめとする大量破壊兵器が溢れ、ICTによるグローバル化が加速度的に進行する現代の国際政治は、1930年代とは質的に異なるかもしれない。それでもなお、「未完」の国際秩序構想が各国・地域の「外交空間」に及ぼし続けている基底的影響には大きなものがあると思う。

なお、本特集の中心は、外交史研究、思想史研究、歴史研究となると思われるが、上記の関心を共有し1930年代の時代特性を明らかにしようという研究ももちろん公募の対象となる。

論文の応募を希望される会員は、論文のテーマと要旨を600-800字程度にまとめ、自宅・勤務先の住所・電話・ファックス・メールアドレスを明記して、2019年8月31日（期限厳守）までに、下記の編集責任者にメールでお送り下さい。テーマとの関係、本特集号の全体構成などを総合的に検討したうえで、執筆をお願いする方には、2019年9月30日までに御連絡いたします。なお、論文の最終締め切りは、2020年2月29日、論文の分量は註を含めて必ず2万字以内とします。ご提出いただいた論文は、2名以上の査読者による査読の対象となります。修正を含め、最終的な掲載の可否は査読後に決定しますので、この点を含めてご了承下さい。

執筆要領については、学会ウェブサイトをご参照下さい。要領を遵守してのご執筆をお願いします。

<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お申し込みやお問い合わせは、以下の編集責任者までお願いいたします。

《編集責任者》 戸澤 英典

《連絡先》 〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1 東北大学法学研究科

Tel.: 022-795-6216 (研究室), Fax : 022-795-6249 (代表)

E-mail: tozawa★law.tohoku.ac.jp (★を@に置き換えてください)



## 日本外交史 I

本分科会は、テーマに「公文書に基づく日ソ戦争（1945年）の再検討」を掲げ、以下の報告者とテーマを迎えた。花田智之（防衛研究所）「ソ連の対日参戦における国家防衛委員会の役割」、加藤聖文（国文学研究資料館）「ソ連軍の満洲進攻と関東軍の解体」、小林昭菜（法政大学）『シベリア抑留』の発生——関東軍兵士のソ連移送と配置」。

日ソ戦争の実態は、研究が十分に進んでいるかという疑問である。日本政治外交史の文脈では、ソ連参戦は日本降伏の重要な要因に数えられるものの、それに続く戦闘や停戦、行政機構の改編、領土の編入、被占領民については、上記の学問分野では探求されない。代わって、引揚やシベリア抑留といった特定の研究分野で語られるのが常で、これらと日本政治外交史との対話が十分になされているとは言い難い。

さらに、史料上の問題もある。日本では、戦争に巻き込まれた民間人の証言や、戦争に関与した元軍人や官僚たちの回想が数多く出版されている。こうした私文書に対し、戦争を遂行した軍部や外務省、満洲国の公文書の発掘は遅れている。ソ連側の公文

書も活用するとなると、本格的な研究は、まだ端緒についたばかりとさえ言えよう。

本分科会は来場者に恵まれ、当日も活発な議論が展開された。まず討論を務めた麻田会員から、花田会員の報告に対し、国家防衛委員会と現地で作戦を指揮したワシレフスキー元帥の力関係について質問があった。花田会員からは、国家防衛委員会の命令がより重きが置かれていたという説明があった。加藤会員へは、関東軍の指導部が、なぜソ連側の意向に従順だったのかについて質問があり、関東軍もまた官僚機構と考えると、むしろ命令なき状態よりも、命令権者が参謀本部からソ連軍に代わった方が円滑に動けたとの応答がなされた。小林会員へは、ソ連に抑留されたあとの人員の配置から言えることがないか質問がなされた。

フロアからは、千島列島への侵攻に関連して、ロシア側が北方領土を前に転進したという説について、花田会員へ質問があった。また小林会員へは、戦後の東南アジアにおける、イギリスの日本人兵士抑留と比較できる点があるかについて質問がなされた。また当日公開されたロシア側が捕獲した関東軍の文書につき、加藤会員へ詳細を求める質問があった。  
(麻田雅文)

## ■編集後記

新年度が始まり、皆さま忙しくお過ごしのことと存じます。あまり多くと、お読みになる時間がないだろう……と付度したわけではないのですが、今号はコンパクトなサイズになりました。前号の反動です。とはいえ少ないからこそ、巻頭言、お知らせなど、じっくりお読みいただければ幸いです。(AY)

例年より随分と早く桜が咲き、散り、すっかり新緑の季節となりました。新年度を新たな所属先で迎えられた方も多いと思います。会員データ変更は学会HPからオンラインでできるようになっておりますので、どうぞご利用ください。(KM)

「広報委員会のお知らせ」でもご案内の通り、ウェブページでは会員の皆様から寄せられる情報や、一橋事務所に届く各種のお知らせを掲載しております。

す。この時期、教員の公募や助成金の公募なども多く寄せられるようになりました。会員の皆様のお役に立てば幸いです。(SK)

日本国際政治学会ニューズレター No.155  
(2018年4月27日発行)

発行人 石田 淳  
編集人 山田 敦・牧野 久美子・小林 哲

〒186-8601 東京都国立市中 2-1  
一橋大学第三研究館内  
日本国際政治学会 一橋事務所気付  
山田敦 jair-pr☆jair.or.jp